

コラム 冬期の河川・道路工事における施工の適正化検討会

北海道などの積雪寒冷地において、土工、特に盛土の冬期施工は、外気温の低下、土の凍結・凍上、雪の混入、日照時間の減少など厳しい施工環境で行われることになり、品質の確保に影響を及ぼすことがあります。

しかし、河川工事では非出水期である冬期に築堤工事や樋門の改築工事を行う場合があり、道路工事においても施工時期の制約、災害復旧、早期供用等のために、冬期における施工が必要になる場合があります。さらに、安定した雇用の観点からも、工事の季節的な偏りを解消していく必要があります。

このような状況から、適切な冬期施工のあり方を検討することを目的として、北海道開発局、(社)北海道建設業協会、(独)土木研究所寒地土木研究所の3者で、平成22年9月に「冬期の河川・道路工事における施工の適正化検討会」を設立しました。

検討会では、最も課題の多かった土工部門に着目して、冬期土工の問題点を整理し対策の考え方や対策例などをとりまとめ、平成27年2月に「積雪寒冷地における冬期土工の手引き」【河川編】・【道路編】（以降手引き）を発刊しました。

寒地地盤チームでは、この検討会に委員および事務局として参画し、手引きの発刊に際して、以下に示すような研究成果を反映しました。

- ・冬期施工による春先の変状対策の考え方
- ・凍土および雪混入による締固め度への影響
- ・冬期に不良土を固化材で改良する場合の留意点

また、北海道開発局留萌開発建設部と共催で「積雪寒冷地における冬期土工の手引き」説明会を開催（平成27年2月27日）するなど、手引きの普及活動も始めました。

今後は、さらに手引きの普及に努めるとともに、新たな成果が得られれば手引きに反映させ、積雪寒冷地で実施される土工に関して技術的な助言を行っていきます。



写真-1 検討会の様子



写真-2 留萌での説明会の様子